

市のおもてなしキャラクター ふつつん



「富津市」の「ふつつ」をモチーフに、大きく両手を広げて迎え入れる「おもてなし」の姿を重ね合わせ、頭の部分は富津岬を、円の右側は南房総国定公園にも指定されている長い海岸線を表し、明るく親しみやすいキャラクターを表現しました。

キャラクターは、市の木である「さくら」を頭に飾り、富津市のイメージを象徴しています。

今後、富津市のおもてなしキャラクターとして、富津市の観光情報発信、地域活性化のシンボルとして活躍していきます。



富津市市民憲章

美しい海と山にかこまれ、緑と太陽に恵まれた、文化遺産豊かな歴史のふるさとに住む私たち富津市民は、生々発展をする新しいまちづくりのために努力することを誓って市民憲章を定めます。

- 恵まれた自然を生かし、美しいまちをつくりましょう。
- 友愛と感謝の気持ちで、明るいまちをつくりましょう。
- としよりやこどもを大切に、
幸せなまちをつくりましょう。
- 健康で仕事に励み、豊かなまちをつくりましょう。
- 教養を高め、文化の香り高いまちをつくりましょう。

ふつつの由来

「ふつつ」の由来については、4つの説があります。

1. 古津(ふるつ) 古い港という意味。中世の文書にある「ふんと」ともこの意といわれています。
2. ほど 「ほど」は、古語で突き出た所のこと、富津岬の地形から考えられたといわれています。
3. 布流津(ふるつ) 日本武尊と弟橘姫(おとたちばなひめ)の伝説に由来しているといわれています。姫の衣が流れ着いたという説もあり、布引海岸(めのびきかいがし)の地名もあります。
4. ふつ 刀を振ったときに発する音で、富津岬を刀と見て、壺力と結びつけたものといわれています。

CONTENTS

市長のメッセージ	1
ふつつのイベント	2
ふつつのまちづくり	3
富津市第3次基本計画	4
産業経済	5
基盤整備	6
生活環境	7
福祉保健	8
教育文化	9
行財政	10
交通	11
防災	12
友好都市・姉妹都市	13
議会	14
内閣府古墳群マップと 富津市の文化財	15
関東の天の橋立富津岬	16
富津市の観光スポット	17
ふつつんすくろく	18
ふつつの味	19
市制施行からのあゆみ	20
富津の方言	21
資料編	22



富津市は、昭和46年、旧富津町・大佐和町・天羽町の3町が合併し、今年9月に市制施行40周年を迎えました。

本市は、房総半島の中西部東京湾側に位置し、南北40キロに及ぶ海岸線、緑豊かな鹿野山や切り立った崖の鶴山など、海や山に囲まれた自然豊かなまちです。

埋め立て地域に企業が進出し、東京湾アクアラインや館山自動車道の開通で首都圏へのアクセスが向上し利便性の高いまちとなっており、今後の更なる発展が期待される場所です。

さて、近年の私たちを取り巻く社会情勢は、長期的な景気低迷による経済不安、少子高齢化や人口減少など、大きな転換期を迎えています。このような厳しい時代の中で、地方分権の進展に伴い、自立したまちづくりに向けた市民と市の新たな関係づくりの必要性も生じています。

市民ニーズに的確に対応し、市民のみならずとの協働によるまちづくりを推進し、誠実、対話、実行による施政を基本としながら「よりよい富津市づくり」、「いきいきとした富津市づくり」、「安全・安心な富津市づくり」に力を注いでまいりますので、なお一層のお力添えをお願い申し上げます。

この市勢要覧は、富津市の現状と、多くの自然や歴史に恵まれた魅力を紹介し、これからの進むべき方向性をわかりやすくまとめたものです。

皆様にご覧いただき、富津市への理解を深めていただく一助となれば、幸いです。

平成23年9月
富津市長 佐久間 清治

